

セグメント別ROE — ビジネス別の資本収益性を的確にモニタリング

当社グループは、セグメント別に使用資本とそのリターンを分析し、全社的なROE向上を図るべく、それぞれに最適な資本効率を追求していきます。

2024年度のグローバル・マーケット&インベストメント・バンキング(GM&IB)部門の使用資本比率は、全体の40%となっています。同部門は、商品のトレーディング・ポジションを保有するために資本を多く使うビジネスであり、ROEは低くなります。一方で、資本をあまり使わないWM部門やAM部門のROEは高くなります。

しかし、単純にセグメントごとのROEの水準だけで経営資源の配分を判断すべきではありません。WM部門とGM&IB部門は密接に連携して業務を推進しており、車の両輪としてお互いの競争優位性の確保に不可欠な存在であるためです。GM&IB部門の扱う株式や債券などは、WM部門を拡大・成長させるための重要なドライバーです。

当社グループでは、WM部門とAM部門を大きく成長させることにより、GM&IB部門の使用資本比率を相対的に低下させると同時に、GMにおける資本効率性を一層高めることで、グループ全体のROE向上を図っています。

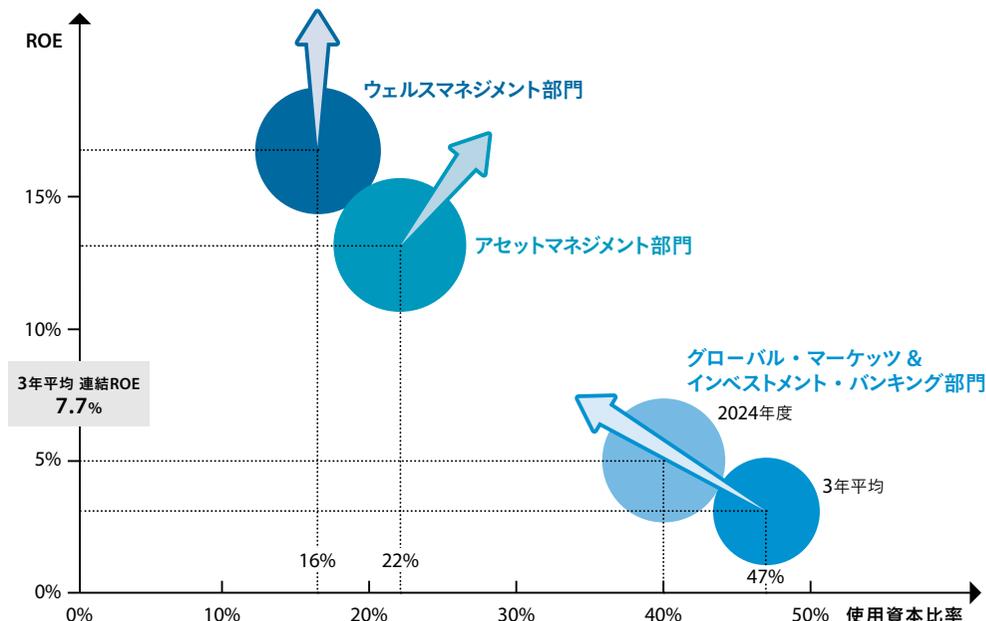
使用資本(リスクアセットベース)とビジネス特性

リスクアセット合計 **6.8** 兆円(2022-2024年度平均)

ウェルスマネジメント部門	<ul style="list-style-type: none"> - 資本負荷は軽い - 中心は大和証券と大和ネクスト銀行 - 主たるリスクは人的投資、IT投資などに伴うもの
アセットマネジメント部門	<ul style="list-style-type: none"> - 総じて資本負荷は軽い - 不動産AMとオルタナティブAMがリスクアセットの大宗を占める
グローバル・マーケット&インベストメント・バンキング部門	<ul style="list-style-type: none"> - GMは、商品のトレーディング・ポジションを保有しているため資本負荷が重い - GIBは、資本負荷が軽い

セグメント別ROE*

ROE、使用資本比率、経常利益は2022-2024年度の3年平均



* 2022~2024年度の3年平均。円の大きさ=経常利益。「その他」(使用資本比率15%)が存在するため、主要3セグメント合計の使用資本比率が100%とにならない。

グループ連結 ROE 推移	(年度)												
	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	8.6%	17.0%	12.8%	9.5%	8.4%	8.8%	5.1%	4.9%	8.5%	7.0%	4.6%	8.3%	9.8%